

414
A 4634



直久維新、際夙、勤王、義ヲ唱

ハ藩士ヲ奨励シ予、藩政ヲ助ケ接

テ王家ニ奉仕シ歴任シテ官奏

任知事、到ル迄、ランヤ去ハ十七日

予カ卯内ニ於テ非命、死ヲ遂ケ呼

身惣然胸裏、溢レ吊セルト欲レテ

言テ処ヲ知ラス又母妻子、悲歎寔ニ

故

一瀬直久家族



想へし予多年交誼最厚レ棺櫃
ニ接レテ昂セント歎スレ凡疾アリ果
サズ聊微衷ヲ表レテ金也百圓ヲ
賜リ其祭祀ヲ即セントス汝テ往テ
予カ意ヲ述ヨ

明治十三年十一月十九日

維新前筑前國舊秋月藩、田代四郎右衛
門吉田右近、筑浦島ヲ以テ家老トレ、印計、巨吉
田彦太夫ヲ以テ用人トレ、吉田五助ヲ以テ大目
附トス。維新、初
家老ト云四郎右衛門五助等ハ從來勤
王ノ志アルモ表ニ発スルヲ得サルハ、巨并藩学教官
中島衡平ト共ニ佐幕論ヲ首唱シ、本藩福岡
老臣數輩ト結ビ、當時所謂勤王家ナル者ヲ壓
抑シ、其威權他ニ超タルヲ以テセ、故ニ巨并等
佐幕論家タル、名隣出、ニ傳播セリ、慶應三
年巨本職ヲ以テ出京、途次長州、赤馬園酒樓
ニ於テ宴ヲ張リ、平生ノ持論ヲ吐キタルニ、長州ノ
兵之ヲ忠ニ陰ニ事アラントセシモ、機會不至、巨等
ハ身ヲ以テ脱タリ、秋月、壯年有志ト唱フル者、戸

原濟甫 後撰國 以下數十名之ヲ傳聞し且、奉
勅ヲ憤概ス明治九年維新ノ際シ其三月藩主
星田甲斐守長徳上京ス四郎右衛門右近隨從ス
濟甫外數名亦扈從シ京ニ於テ周旋方ト唱ム
諸藩士ト應接ス甲人彦太夫且ハ共ニ京ニ在
テ相結ヒ乃兩黨ヲカツ甲斐守且、悔國ヲ
命ス且其命ヲ奉セヌ 福岡藩在京ノ老臣、
依リ四郎右衛門其他ヲ誘ヒ猶自ラ京ニ滯
リ權ヲ執リ且主ヲ凌轡セシトス 同年閏四月
勇朝廷ニ徵サレ出京ス 甲斐守勇ヲ召ニ致
事ヲ顧問ス 傍且進退ノ事ニ及フ 勇在京
ノ福岡秋月兩藩士其他ニ向テ遍ク且、行事
ヲ問ニ福岡老臣ノ不断ヲ責メ在京ノ福岡老臣

外患名ト秋月人數名ヲ會シ衆人ノ面前ニ抗
テ勇且ニ向シ其既往ノ蹤跡ニ溯リ現時ニ及
ヒ殊ニ福岡老臣ニ向テ甲斐守以下ヲ誘ヒ
免濟ヲ帶テ之ヲ誘ヒ彦太夫且ヲ助テ抗辯
スルモ其論遂ニ屈シ甲斐守福岡老臣ト謀
リ遂ニ且ヲ陽國セシム 同年五月六月、頃カ且
其藩内ニ入ル、日其藩于城隊士之ヲ途ニ
要セシモ其様ヲ失シ其夜且、家ニ入り
且ヲ殺サントセシニ其妻之ヲ匿リタルコト
露ルカ録ニ記シ先死セリ 且モ亦斬殺セラル
大夜于城隊ハ數十名ヲ二ツコトシ一且ノ家
ニトキ一衛平ノ家ニ往キ衛平ヲ斬殺ス
一瀨直之 當時山本 于城隊ノ一人ニシテ且ヲ殺

したる 部中よりは夜子城隊、亘徳平、若然、
 斬殺、高執書ヲ副一家在、其助、出、一、同、嘉浦
 其、出、ち、干、城、隊、行、未、勤、王、倫、リ、主、ト、レ、レ、
 者、ヲ、結、こ、ん、ヲ、以、テ、互、ノ、主、命、ヲ、奉、テ、ス、還、
 面、目、ヲ、變、シ、強、ニ、奉、テ、シ、テ、他、ノ、衣、蔭、ヲ、求、メ、
 刺、有、テ、勤、王、ヲ、喝、シ、者、ヲ、決、シ、私、意、ヲ、逞、セ、ト、
 然、ル、事、ヲ、傳、聞、シ、事、此、ニ、至、リ、シ、ナ、リ、秋、月、落、
 事、朝廷、ニ、聞、ク、事、由、リ、注、問、セ、ラ、レ、正、朝、
 ノ、到、然、々、ン、ヲ、以、テ、副、総、裁、岩、倉、公、甲、斐、守、ヲ、
 只、シ、手、カ、ラ、一、書、ヲ、此、へ、シ、リ、リ、勇、今、其、之、ヲ、
 謗、記、セ、ス、古、々、其、大、意、ヲ、録、ス、

四ノ三ノ事ヲ言フ日

甲川 勇

輔相山家倉公、甲斐守、其、
 書面ノ大意

其、藩、カ、シ、テ、者、共、四、井、亘、中、島、衛、平、ヲ、斬、
 殺、シ、リ、ン、ハ、余、ノ、國、家、ノ、為、ニ、シ、テ、美、事、ニ、出、
 シ、リ、其、志、ヲ、賞、シ、之、ヲ、擢、シ、他、ノ、勇、鑑、ト、
 相、成、ス、様、可、以、計、事、

1
A

414
A



故

一瀬直久家族 江

直久維新ノ際夙ニ勤王ノ義ヲ唱

藩士ヲ煥勵シ予ノ藩政ヲ助ケ接

王家ニ奉仕シ歴任シテ官奏

任判事ニ到ル豈圖ラニヤ去ル十七日

予カ邸内ニ於テ非命ノ死ヲ遂ケ呼

手慙然胸裏ニ溢レ吊セント欲シテ

言フ処ヲ知ラス父母妻子ノ愁歎實ニ

兵之ヲ患ニ陰ニ事アラントセシモ機會不至巨身
ハ身ヲ以脱タリ秋月ノ壮年有志ト唱フル者戸

大隈

想フヘシ予多年交誼最厚レ棺櫃
ニ接シテ吊セント欲スレ氏疾アリ果
カス聊微衷ヲ表シテ金壹百圓ヲ
贈リ其祭祀ヲ助ケントス汝ヲ注テ
予カ意ヲ述ヨ

明治十三年十二月十九日

1
A



大正十一年四月
天隈侯爵邸寄贈

維新前筑前國舊秋月藩田代四郎右衛門
吉田右近兼浦某ヲ以テ家老トシ曰井亘吉
田彦太夫ヲ以テ用人トシ吉田五助ヲ以テ大目
附トス維新ノ初家老ト云四郎右衛門五助等ハ迄來勤
王ノ志アルモ表ニ發スルヲ得サルハ亘吾藩學教官
中島衡平ト共ニ佐幕論ヲ首唱シ本藩福國
先臣數輩ト結ヒ當時所謂勤王家ナル者ヲ壓
抑シ其威權他ニ超タルヲ以テ也故ニ亘衡平等
佐幕論家タルノ名隣藩ニ傳播セリ慶應三
年亘本職ヲ以テ出京ノ途次長洲赤馬園酒樓
ニ於テ宴ヲ張リ平生ノ持論ヲ吐キタルニ長洲ノ
兵之ヲ患ミ陰ニ事ヲラントセシモ機會不至亘等
ハ身ヲ以脱タリ秋月ノ壯年有志ト唱フル者戶

原濟甫後桓國以下數十名之ヲ傳聞レ亘ノ奉
勤ヲ憤慨ス明治元年維新之際レ其三月藩
主黒田甲斐守長徳上京ス四郎右工門右近隨
從ス濟甫外數名亦扈從レ京ニ出テ周旋方ト
唱ヘ諸藩士ト應接ス同人彦太夫亘ハ共ニ京
ニ在テ相結ヒ乃兩黨ヲ分ツ甲斐守亘ニ歸國
ヲ命ス亘其命ヲ奉セス福岡藩在京ノ老臣
ニ依リ四郎右工門其他ヲ諷レ猶自ラ京ニ滞リ權
ヲ執リ其主ヲ凌轍セントス同年閏四月勇朝
廷ニ激サレ出京ス甲斐守勇ヲ召レ數事ヲ顧
問ス傍亘進退ノ事ニ及フ勇在京ノ福岡秋
月兩藩士其他ニ向テ遍ク亘ノ行事ヲ問ヒ福
岡老臣ノ不斷ヲ責メ在京ノ福岡老臣外數

名ト秋月人數名ヲ會レ衆人ノ面前ニ於テ勇亘
ニ向ヒ其既注ノ蹤跡ニ溯リ現時ニ及ヒ殊ニ福
岡老臣ニ向テ四郎右工門以下ヲ諷レタル證ヲ
舉テ之ヲ詰ス彦太夫亘ヲ助テ抗辯スルモ其
論遂ニ屈レ甲斐守福岡老臣ト謀リ遂ニ亘
ヲ歸國セシム同年五六月ノ頃カ亘其藩内ニ入
ルノ日其藩干城隊士之ヲ途ニ要セシモ其機ヲ
失レ其夜直ニ亘ノ家ニ入り亘ヲ殺サントセシ其
妻之ヲ遮リタルニ多數ノ刀鋒ニ觸レ先死セリ
亘モ亦斬殺セラル此夜干城隊ハ數十名ヲ二
ツニ分チ一ハ亘ノ家ニ赴キ一ハ衛平ノ家ニ往キ
衛平ヲ斬殺セリ一瀬直久當時山本ハ干城隊
ノ一人ニシテ亘ヲ殺レタル部中ナリ此夜干城

隊ハ亘衛平ノ首級ニ斬殺ノ意趣書ヲ副一ハ
家老五郎ニ出レ一ハ同輩浦某ニ出セリ干城
隊ハ没来勤王論ヲ主トスル者ヲ結ヒタルヲ以テ
亘ノ主命ヲ奉セズ遠カニ面目ヲ復シ陰ニ奔走
シテ他ノ庇陰ヲ求メ刺骨テ勤王ヲ唱シ者ヲ
諷シ私意ヲ逞セントスル舉ヲ傳聞シ事此ニ至
リレナリ秋月藩ノ事朝廷ニ聞ハ官其事由
ヲ訪問セラレ正邪ノ判然タルヲ以テ副總裁岩
倉公甲斐守ヲ召シ手カラ一書ヲ興ヘラレタリ勇
今其文ヲ請記セス左ニ其大意ヲ録ス

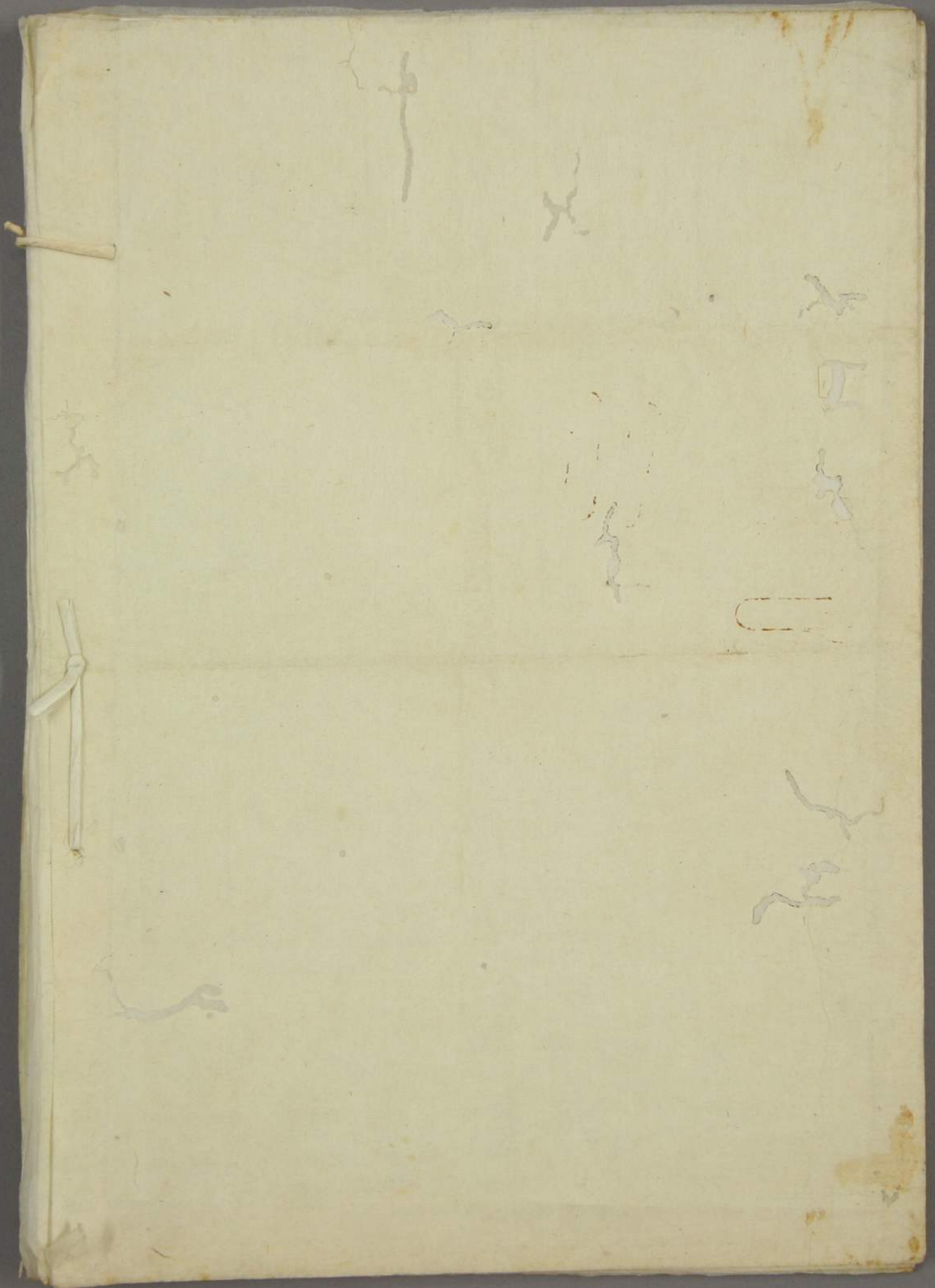
明治十三年十二月廿日

早川 勇

勅 副總裁岩倉公ヨリ甲斐守ニ興ヘラレタル書

面ノ大意

其藩少年ノ者共曰井亘中島衛平ヲ
斬殺シタルハ全ク國家ノ為ニスル義舉
ニ出ルヲ以テ其志ヲ賞シ之ヲ拔擢シ他ノ
勇鑑トモ相成ヌ様可取討事



16

2

3

4

5

6

7

8

9

10